

(端裏書)

「大九右衛門様 末彦右衛門

貴下内要用分」

さし急キ御法御免可被下候

扱今般御目見江被

仰出候_{ニ付而者}前触ハ勿論

其外出来り之者共御役所へ

御請_ニ罷出候義旧例_ニ

御座候處、定_而御承知

哉と奉察候得共為念

御沙汰申上候間此段

御含被成最寄_江

御沙汰被成候_而ハ如何哉、右
得其意申上度迄

申留候、已上

六月一日

尚々明日ハ態沢様御宅

_{ニ而}皆々差揃候上

御城迄出勤仕候様被

仰聞候旨是又御知らせ

申上候、以上

鯉節引替札之義_者

未夕御取究メ無之、追々

御様子可然候、以上